

JOFIOSAKA Vol.23

2009年(平成21年)1月30日発行 発行者:大阪府釣りインストラクター連絡機構

本部:大阪府東大阪市中小阪1-5-20 tel06-6729-9485 fax06-6729-9457 広報部:大阪市北区天神橋3-8-15 tel06-6358-4414 fax06-6358-4445



「大阪港問題は、公式に検討委員会が開かれることになりました」

来田 仁成 (大阪府釣りインストラクター連絡機構代表)

大阪港の舞洲社会実験や、大阪湾水質検査など、釣り人が社会の一員として果たす役割が一段と大きな意味をもつようになってきました。大阪港の立ち入り禁止条例と場所指定のパブリックコメントが募集され、それが新聞、テレビなどで大きく取り扱われるに及んで、港湾での釣りの是非の問いかけを契機に、釣り場での釣り人のマナーや自己責任の意識について、釣り人の指導的な役割を果たすべき釣りインストラクターの存在もまた、意義深いものへと認識をあらたにしつつあります。

立ち入り禁止問題で大阪市側と話し合う上で、やはりわたしたちが実施してきた舞洲釣り場開放のための社会実験がおこなわれていなければ、当然、こんな問題が発生したときに、どこで話し合っていけばよいのか、わからなかったでしょうし、市の側でも、社会実験の実績から、信用して話し合いに応じてくれたにちがいありません。

そうした意味で JOFI 大阪は、単なる釣り愛好者団体や、競釣会と異なって、一定の資格を持つ釣り人のリーダーの集団であり、(社)全日本釣り団体協議会の精神的な核である存在であることの信用が大ききものをいったわけです。

幸い、社会実験の当日に現地視察にこられた平松大阪市長にも、健全な釣りや、市民と港湾のありかたについて、柔軟な理解を示していただきました。

これから7月までの間、港湾関係者、法律家、市民団体代表者、学識経験者、そしてわたしたち釣り人側の代表者の五者によって、公式の外部意見交換会が開かれます。

テーマは「立入禁止区域の指定について」となっていますが、当然、その中には、市民と海の関係のあるべき姿、これから開放されるであろう護岸や岸壁、そして沖堤の管理の方法など、さまざまな内容が含まれるはずです。

そして、何よりも意義深いのは、こうした話し合いが、公開の場で行われるということです。つまり、これまで釣り人が公式に発言する機会や場所がまったく存在せず、なにかことがあっても、陳情というかたちでしか意見を述べるができなかったこととくらべると、格段の違いだといえます。

30年以上も前、(社)全日本釣り団体協議会が創設された当時、社団法人として農水省の指導を受けることができるようになって、はじめて行政の中に釣り(遊漁)というものが認められるようにな

りました。そしてやがて農水省の助成事業として国家の予算が計上され「公認釣りインストラクター制度」が発足しました。そして9年前にはじめて、水産基本政策の転換と時を同じくして、農林水産省・水産政策審議会特別委員として、全釣り協に席が与えられ、水産行政の中で法が作られる以前のプロセスに、参画することができるようになりました。

しかし港湾の分野では、これまで、釣り公園は各地に作られていても、釣りという問題で、市民が公式的に発言する機会はまったくなかったはずで

今回はじめて、大阪港の立ち入り禁止問題で、はじめて市民に向けて意見募集(パブリックコメント募集)が行われました。つまり、大阪市民がパブリックコメントを通じて大阪の市政に参画した貴重な機会であったわけです。

それが、なお引き続いて、港湾の管理という面で、公開の会議が開かれようとしています。(社)全日本釣り団体協議会発足のころから、微力ながら参画してきたわたしにとって、先達の開いてこられた長い道のりの途上にあって、このことの意義の大きさに思いを致さざるを得ないのです。

そして、これも、JOFI 大阪のみなさんのご理解とご協力なしには、起き得なかったであることと感謝します。

(社)全日本釣り団体協議会ってなんや、全釣り協ってなにをしてくれた? さまざまな機会に、聞き飽きるほど聞かされてきた異見にむかって、いまこそ、こうした釣り人の位置づけの確保そのものが全釣り協活動の根幹なのです。そしてそれを支えて、具体的な方法で、釣り人のモラル向上と、社会的認知のために、ボランティア活動を実行してこられたみなさんの努力の積み重ねの大きさ故に、公的な会合にまで持ち込むことができたのだと感動しています。

道はまだまだ途上にはありますが、引き続きご理解と、ご協力をお願いします。

そして、このすばらしい“釣り”を未来へと無事に伝え残しましょう。

(平成21年1月)



「大阪湾 53PickUp!」 (11/9)

主催：NPO 法人 釣り文化協会

NPO 法人 水辺基盤協会

NPO 法人 環境教育技術振興会

実施日：11月9日 8時30分～13時

(ゴミ処理日：11月10日 12時～17時)

参加者数：76人 (大人69人、子供7人)

集めたゴミの量：可燃ゴミ158袋、不燃ゴミ23袋、粗大ゴミ軽トラック一杯、ダイバーの拾ったゴミ2袋 (袋は90リットル袋で換算)

今年で3年目の大阪湾 53 (ごみ) ピックアップは、今までやってきた中で最も手強いエリアである「貝塚～泉佐野地区」を重点清掃地区として実施しました。

第1班は貝塚人工島・二色北町地区。ここは立入禁止になっている埠頭と根元にフェンスがある立入禁止の防波堤があります。釣り場の入口に置かれたゴミの異臭は最悪で、一般の市民から苦情が出ることも多いと聞いています。こんな状態では解放なんか出来ないとしますので朝からがんばって掃除をしました。この地区はトップウォーターの仲間を中心に様々なアングラーが参加してくれました。

第2班は貝塚人工島・二色南町地区の釣り場として開放されている堤防です。ここでも釣りのゴミや仕掛け、弁当カス、エサの残りなどが大量に捨てられていました。一番大変だったのはゴミ箱まわりに積まれた大量のゴミで、ヒューマンの学生さんや湾岸シーバスのメンバーなどががんばって片付けてくれました。

第3班は泉佐野港です。フェリーが運航していた当時は自由に出

入りができた有名な場所でしたが現在は一応立入禁止です。この港は現在海上保安庁の船が泊まっているだけの港ですから、ほんとは釣りに絶好の場所なのですが、利用する事業所がなくなったので、捨てられた釣りのゴミは処理されなのまま山のようになっていました。JOFI 大阪のインストラクターが中心でがんばってくれました。

第4班は二色浜公園で海底の清掃です。NPO 環境教育技術振興会の関藤さん以下9名のダイバーが参加し、9時半頃から約1時間海底の清掃を行いました。今回集めた水中のゴミは2袋分程度です。ダイバーのみなさんは海底清掃の他、アマモの植栽や田辺湾のサンゴ保護などをされています。今後釣り人団体としてぜひお力になればと思います。

集まったゴミは、次の日に処理場 (貝塚岸和田クリーンセンター) に持ち込みましたが、小型トラックで4台分もありました。総重量は1.2トン、処分費用は12,920円でした。しかし70人あまりでこれだけのゴミということは、一人で約17kg、特大ポリ袋3袋分を集めたことになります。よくがんばったと思います。なお今回も多く釣具メーカーに協賛していただきました。参加賞としたほかカンパとして販売させていただき39,000円の活動費になりました。参加者にも参加費をいただき、保険料およびゴミ処理費用とさせていただきます。ありがとうございました。

今年(平成21年)は11月8日、同じ場所で開催を予定しています。多くの皆さんに呼びかけていただきますようお願いします。

(報告：萱間修/大阪湾 53 ピックアップ実行委員会)



泉佐野港。好釣り場なのですが…

釣り場の入口に生活ゴミも



水中のゴミ清掃も行ないました



貝塚埋立地・通称プールのゴミはトラックに乗りきれないほど



76人で1.2トン!

【お知らせ】 春季にも泉佐野漁港の周辺で清掃大会を実施しようと現在計画中です。決まりましたらご協力よろしくお願いたします。(ゴールデンウィーク前後の予定)



「舞洲における環境学習と魚釣りの社会実験」(9/15.10/26)

大阪市の公園条例で決められている「釣り禁止」を解除してもらうために、大阪市港湾局と協力して 2007 年度から社会実験を実施してきましたが、2008 年度は、釣り場として年間を通じて適しているかどうかを調べるために 3 回実施することになりました。

その第 1 回目を 9 月 15 日に釣獲調査釣り大会として実施（担当：NPO 釣り文化協会）。参加者は 51 名。アジやイワシがよく釣れましたが、昨年のようなシーバスは釣れませんでした。第 2 回目は 10 月 26 日一番釣れる時期にファミリー海釣り大会として開催（担当：日本釣振興会大阪府支部）。あいにくの天気でしたが 100 名近くの参加があり、アジ、イワシ、サヨリの他、際のズボ釣りでシーバスが何匹も釣れていました。

またこの日は大阪市の平松市長が「大阪港の全面立入禁止を見直す」という意志表示のために、この釣り大会の視察がありました。事情を説明すると、条例により 10 月から大阪港全面立入禁止の規則が実施されようとしていましたが、行政手続法の関係で 8 月 26 日～9 月 26 日まで意見公募が行なわれ、港湾局に届けられた意見公募には約 1300 通もの反対意見があり市議会でも市側から見直しの答弁があったところ。市長は利用している市民との話し合いを進める意向を示しました。

当日我々は水質調査の講習会やゴミ掃除、釣り場以外に入られている釣り人への対応などで大忙しでした。



3/15

参加者募集中!



「舞洲における環境学習と魚釣りの社会実験 (3/15)」

大阪市では昨年より港湾部の利用について市と釣り人代表の委員会で協議が続けられていますが、釣り人のマナーの問題をクリアするために、この社会実験は大変重要な意味を持つようになり、公園において一般の方との共存ができるかが大きなテーマとなっています。また、釣り場として適しているかどうか調査することになりますので腕達者な皆さんにぜひお越し頂きたくお願いします！ 参加費は無料です。当日は水質調査の講習会、釣り場クリーン活動も実施します。

主催：釣り文化協会・日釣振大阪府支部・全日本釣り団体協議会 / 共催：大阪市港湾局
 日時：3月15日(日) 午前6時～10時 (準備は5時20分集合)
 場所：大阪市此花区・舞洲緑地 シーサイドプロムナード
 申込先：NPO 釣り文化協会事務局 fax06-6358-4445 またはメール jimukyoku@turibunka.or.jp
 氏名・年齢・住所・電話番号を書いてお申込みください。



今期第 2 回目の「水質調査員研修会」(8/9)

8 月 9 日、南港魚つり園 NPO 控え室にて、大阪府環境農林水産総合研究所の鍋島靖信先生をお招きして今期第 2 回目の水質調査員研修会を開催しました。これは NPO 釣り文化協会が主催し、JOFI 大阪が全面協力している大阪湾の水質調査の調査員研修と、ジュニアの調査員研修および新規の調査員研修を兼ねたものです。講習内容は、大阪湾の水質と生物について（鍋島氏講義）、水質調査器具の取扱と計測の注意点、実地講習。参加者は大人 13 名、ジュニア 4 名の計 17 名、初めての受講者は 7 名でした。



鍋島先生の講義に聞き入る



ジュニア水質調査講習

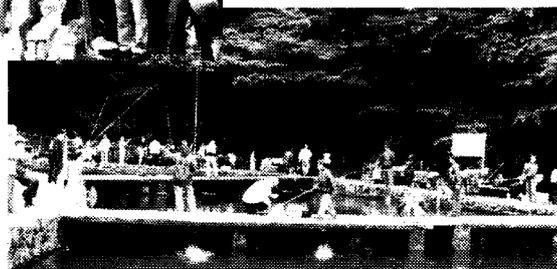
報告4 「南港魚つり園釣り指導活動」(年間)

JOFI 大阪メンバーによる平成 20 年の南港魚つり園・釣り指導活動は、ほぼ毎週日曜日に実施し、述べ 301 人のインストラクター活動を実施しました。埋立地によって沿岸部の潮通しが悪くなったためか、年を追うごとに釣れなくなってきていますが、無料で安全に楽しめる釣り園の人気は衰えず、釣りに入門する方々にとっては大切な釣り場です。少ない釣果でも確実に釣る方法や楽しみ方を伝え、釣りの世界に触れていただきたいですね。



報告5 「柏原市釣り教室」(6/7~9/6)

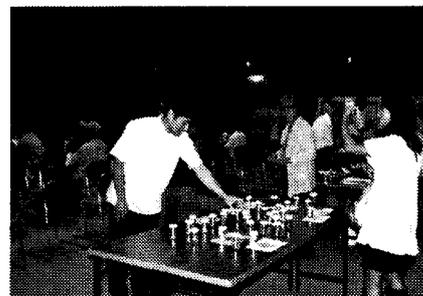
第 12 回柏原市釣り教室は、前期教室を 3 回(6/7、6/21、7/5)、後期教室を 3 回(8/23、8/30、9/6)行ないました。前期教室には 33 名、後期教室には 13 名が参加。ウキやルアーを作ったり、大和川でキャストの練習をしたり、コイやカメが釣れたりして、楽しく釣りの勉強をしました。仕上げは 9 月 28 日の「千早マス釣り大会」。この日の出席者は 18 組 60 名で、市長も応援に参加され、家族参加の皆さんとたくさんのマスを釣り楽しい一日を過ごすことができました。講師は中野、奥村、宇須、小松、森脇が担当しました。(報告：森脇操)



報告6 「大阪湾生きもの一斉調査結果発表会」(9/6)

6 月 21 日に大阪湾 15 カ所で 11 団体 470 人が参加して行なわれた「大阪湾生きもの一斉調査」の報告会が、9 月 6 日、大阪市立中央会館ホールにて行なわれました。各団体のポスターセッションと発表のあと、水産総合研究所の鍋島先生、大阪湾海岸生

物研究会の山西先生の講評があり、大阪湾に生息する生物の特徴が分かり、また非常に珍しいカニなども発見されたことからこの事業の意義も認められた結果発表会でした。終了後懇親会もあり大阪湾の自然保護団体との交流を深めました。



報告7 「野崎青少年教育センターファミリー釣り大会」(9/7)

9 月 7 日、大東市立青少年教育センターファミリー釣り大会が行われました。当日は天気心配されましたが、何とか雨も降らずに約 30 名 9 家族の方々と釣りを楽しむことが出来ました。私を含めた 4 名のインストラクターで、仕掛け作りから竿とリール、釣りのマナー、毒魚など説明。初めての子も目を輝かせて聞いていました。生き物とのふれ合い、また釣りを通じて素直な子供達に育てば、うれしい限りです。午後 7 時の終了時間ですが、釣れる時間帯が午後 6 時頃からと遅かったので、反省点として今後時間の考慮もしなければと思いました。(報告：元抜等/中河内支部)

【主催者からの報告】現地には午後 3 時頃に到着、釣りインストラクターのみなさんに釣り道具の用意をお手伝いしていただきました。風が吹き雨が降りそうになりましたがもちなおして、涼しくなった 6 時前からアジがかりだし、その後は入れ食い状態になりました。するとエサが無いとのことで職員が慌てて用意、一度に 3~4 匹かかっている人もいました。どの家族も大満足。午後 7 時に終了の合図。釣り場を来たときよりも美しくして釣り大会を終えました。当日のご指導助言、また大きな鯛をいただきほんとうにありがとうございました。(大東市立野崎青少年教育センター 中村忍)



「みらい園釣り教室」(9/14)

9月14日、大阪市立弘済みらい園の実釣が大阪南港魚釣り園で開催された。先生方4名に引率されてきたのは、小学校2年から中学校2年の男女合わせて15名。実釣に先立って8月19日に吹田市にあるみらい園で座学を行なった子供たちである。釣り場に到着、準備ができた子供からサビキ仕掛けて釣りの開始となった。

スタートは9時ごろ、JOFI 大阪来田代表をはじめとする11名が指導に当たり、子供たちに釣りを楽しんでもらえるよう、エサの入れ方、サビキの釣り方を指導。食いがひと段落した状態での開始となったが、それでも15人がサビキでアミをまき始めると魚も食欲が出てきたのか10cmほどの小アジがポツリポツリと釣れるようになってきた。動く魚におっかなびっくりの子、となりに負けじと一



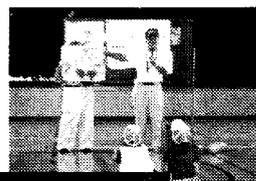
心に仕掛けを入れる子、動く魚が怖いとしり込みしていたのいつの間にか魚を持ってバケツに入れている子、バケツの中のアジをつかんで観察をする子と大賑わいで、バケツの

中のアジの数が増えていく。12時過ぎまで釣って釣果は50匹ほど。全員魚の引きを味わってくれて、北大阪支部としての行事として、みんなの笑顔を見ることができてホッと胸をなでおろす。みんなで弁当を食べ、暑かった日の実釣はキラキラした子供たちの顔を思い出に終了。車を見送る時もみんな手を振って口々にありがとうと言ってくれた。釣った魚は園で南蛮漬けに調理され、みんなのおなかにおいしく収まったとのことです。(報告：榑田佳伸/北大阪支部長)

「八幡市フィッシングスクール」(9/20)

市民に魚釣りの楽しさを知ってもらおうと、八幡市教育委員会が9月20日、第7回フィッシングスクールを開催しました。参加したのは5歳の子どもから78歳の高齢者まで24人、全日本釣り団体協議会公認のインストラクター10人が指導にあたりました。さくら小学校で魚釣りのマナー、エサの作り方など講義を行なった後、午後は志水農家組合の釣り池センターで実際に

コイ釣りにチャレンジ。子どもの頃に近くの川で遊びで釣ったことがあるだけという女性、機会がなくてまったく初めてだという男性、子どもたちもほとんどが初心者。最初のころはアタリが多く、コイが次々と上がります。最大57cmの大物もあり、子どもたちの歓声が響きました。スクール終了後、釣り上げた魚はすべて池に返しました。(報告：吉川幾久雄/京都南支部長)



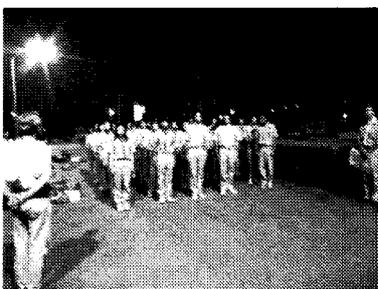
「ボーイスカウト釣り章講習会」(9/23)

9月23日、泉南郡岬町淡輪で、平成20年度ボーイスカウト大阪連盟なわ地区スカウト委員会釣り章講習考査会が開催されました。受講者は隊員33名で、大阪市内地区から13名、大阪府下北部地区から2名、南部地区から18名。講師はインストラクター8名で実施しました。

第1部は、みんなのたまり会場館で9時30分から開会式が行われ、その後、座学の「船釣り」「波止釣り」「ルアー及びフライ」と進み、実技「釣り糸の結び方」等の講習を行い、昼食後に筆記テストが13時50分から開始され、全員満点になるまで行われました。この釣り章講習会は筆記テストが最後に行われるため講師も大変です。

第2部として、15時から淡輪漁港へ場所を移して実釣考査を行いました。ハオコゼなど危険な魚を実際に見て学習してもらいました。17時30分頃からイワシが釣れだし、少し遅れてアジも波止先端で釣れてきました。先端で10数匹以上釣れた隊員とまだ釣れていない隊員と入れ替えを行いました。少し経過すると全波止で爆釣となり、全隊員が釣りの楽しさを満喫しました。18時過ぎには釣り具の片付けと清掃作業を行い、閉会式では代表インストラクターが講評を行いすべてが終了しました。来年度もスカウト委員長から協力要請がありました。(報告：物部胤三/事務局長)

【主催者御礼】釣り章の講習考査会のご指導ありがとうございました。午前中の座学講習、午後からの実技講習で釣りを通じてマナーと安全を私どものスカウトに伝えていただきボーイスカウトの活動に於いても「安全より優先される事は無し」を改めて認識しました。実技では全員の竿にあじ、いわしが掛かり手に感じる釣りの面白さを堪能していたようです。時間が来てなかなか終わらなかったのは素直に楽しかったからでしょう。言葉で感謝するには足らぬほど充実した講習考査会を開設指導していただき心より感謝申し上げます。(大阪18団ベンチャー隊長 篠原康成)



報告11

「みらいず障害者バリアーフリー釣り教室」(10/18)

10月18日、障害者バリアーフリー釣り教室が、みらいず主催でJOFI 大阪の協力もいただいて開催。晴天にも恵まれ8回目と回を重ねることができました。参加者はサポーター、ヘルパー、研修生など80名あまり。インストラクターの物部、川村、高淵、安達、塩見、清水の6名に手伝っていただき、サビキ釣りをメインに、ズボ釣りを行いました。アジが良く釣れ、他に木っ端グレ、ベラ、カサゴ、スズメダイなど今年もいろんな魚が釣れ、みんな喜んでいました。車椅子に乗って釣りをしている子、自閉症の子やいろんな障害を持った子たちが今年も頑張って釣りをやり、ヘルパーさんも一生懸命サポートしていました。私は仕事の関係で途中からの参加でしたが、また次もみらいずの皆さんと協力しサポートしていきたいと思えます。インストラクターの皆さんのご協力と支援を御願い致します。

(報告：房野功治/泉州支部長)



報告12

「渚探検隊」(11/1~2)

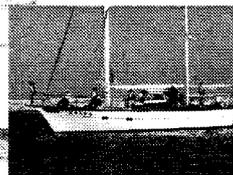
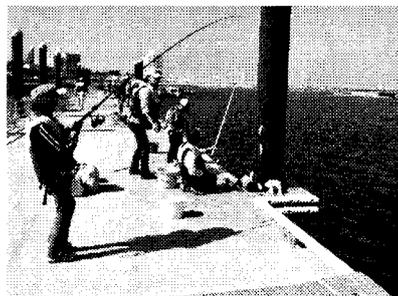
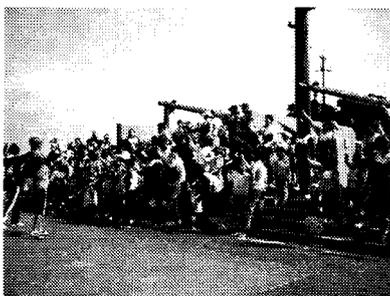
11月1日2日の両日、淡輪大阪府青少年海洋センターにおいて「第3回渚探検隊(大阪湾に棲む魚を調べよう)」が開催されました。41家族125名と大変多くの参加者があり、一日目は2グループ、二日目は3グループに分けました。

まず初日、参加者のほとんどが初心者であり、グループ毎にリールのセット、サビキ仕掛けのセット手順の説明、移動時の注意、マナー(ゴミ)、ハコオゼ等の毒魚の扱いなどの説明に終始熱心に聞いてくれていました。全員ライフジャケットの着用を済ませ釣りに移動。気温21度、海水温19度、中潮。第1投でアジが掛かるなどあちらこちらで満面の笑顔と歓声があがります。子供用にと用意された一本釣りの竿で、ベラ、木っ端グレ、フグを釣る子供達。サシアミを付けるのに悪戦苦闘の姿も。船に乗るグループと交代するため約1時間30分程度の短時間なので全員一生懸命。釣りの持ち時間はあっという間に終了です。朝から好天に恵まれ昼頃には無風状態で汗ばむ陽気となりました。15時30分に午後の部を納竿としました。二

日日も前日同様注意事項等を行い実釣に移りましたが、時が短時間で前日のような釣果は望めませんでした。多く釣った家族で50~60尾、少ない家族で10数尾です。前日はその倍は釣れていました。海洋センターの料理担当の方に参加者が釣ったアジのから揚げを作っていただき、釣りたてのアジ料理に舌鼓をうっていました。二日間とも好天に恵まれ事故もなく無事終了しました。参加者全員楽しく過ごせた思いで家路につかれました。

この二日間我々指導員側の反省として、開催前に主催者担当と事前打ち合わせをしたものの細部が出来ていなかった(予備の仕掛け等の現場携帯)、参加者125名を指導員2名で走り回り対処したがきめ細やかな指導が出来なかった(参加人数に適応した指導員の配置)、他には閉会時に参加者との意見交換、アンケートの収集等(可能であれば)があると思います。これら反省点を改善し今後も発生する同様事業へ反映していきたいと思いました。

(報告：塩見正美/堺南河内支部、写真：高淵諒/泉州支部)



報告13

「大阪湾稚魚放流」(8/28)

日本釣振興会大阪府支部と大阪府釣り団体協議会で続けてきている「大阪湾稚魚放流」は8月28日に実施し協力しました。





平成 21 年度「大阪湾の水質調査員」募集

釣り人と市民がおこなう大阪湾の水質調査「平成 21 年度・水質調査員」募集します。

私たちの観測する地点は“湾奥部”といわれる場所が多いのですが、ここには自動観測装置が設置されていません。また大阪湾の生き物データは一般的には漁獲高でしか表されていないで、身近な場所の水質や生物のデータは今までほとんどありませんでした。人がやることですから多少観測数値の誤差はあるかもしれませんが、この調査の良いところは、人の目の観測が同時に行なえ、生物環境の変化を克明に記すことや、また青潮が発生したといった事態にも調査員の足で各地点を見に行けるということがあり、市民による環境モニタリング調査のモデルとしても高い評価を得ています。ぜひ、みなさんのご参加をお待ちしています。

募集期間：平成 21 年 3 月～7 月

募集人員：A 調査員（定点調査員）15 名程度

B 調査員（任意点調査員）〃

C 調査員（目視調査員）若干名…キットは使用しません

調査期間：平成 21 年 4 月～11 月（7～9 月は重点期間）

参加資格：水質調査員になるためには資格は必要ありません。なお、AB 調査員は水質調査器具の使い方について研修会を行います。

費用：AB 調査員には「水質調査キット」をお渡しします。器具代の実費のみご負担ください（器具代 3500 円／試薬代 4500 円）。試薬の補給については釣り文化協会が負担します。C 調査員の費用負担はありません。

謝 礼：ありません

申込み先：

釣り文化協会事務局（tel06-6358-4414 fax06-6358-4445）または釣り文化協会本部（tel06-6728-9485 fax06-6729-9457）まで

<平成 21 年度水質調査員申込書>

住所 〒

氏名

生年月日

自宅電話番号

携帯電話番号

FAX 番号

E メール

（通信欄）調査したい地点など

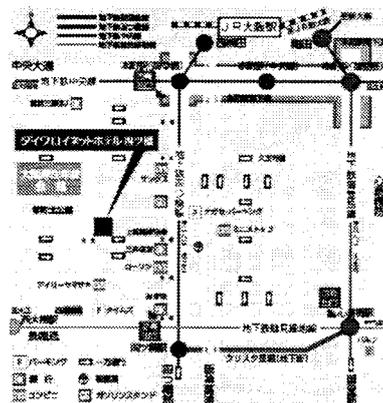


JOFI 大阪のホームページ

新ホームページアドレス <http://www.jofi-osaka.com>

JOFI 大阪のホームページを平成 20 年 1 月より試行環境（<http://jofiosaka.dip.jp>）で運用してきました。うれしいことに当初予定していた以上にホームページへのアクセスが多く、ゲストユーザや登録（会員）ユーザのご期待に十分お答えできない状態となっていました。

より一層 JOFI 大阪のコミュニティサイトとしての役割を充実させるため、新たにアドレス（URL）を取得し移設再構築を行いました。会員専用のページでは総会、役員会等の議事内容・各種イベント（取組み）の紹介や参加募集、教材等の会員だけの情報が満載。JOFI 大阪の会員の方は、ID・パスワードの登録をおねがいます。（田岡）



平成 21 年度定期総会

平成 21 年 3 月 8 日 日曜日 12 時から、ダイワロイネットホテル四ツ橋（西区新町 1-10-12）にて、平成 21 年度大阪府釣りインストラクター連絡機構の定期総会を開催します。

会員の皆様は全員お集まりください。また、会の活動を共にしたいという方もお誘いください。

13 時 15 分より懇親会（会費 5 千円）、15 時より 21 年度第 1 回役員会も行ないます。



「大阪湾シンポジウム ～港と仲良くしよう～(仮称)」開催案内

JOFI 大阪メンバーが中心となって、大阪湾の湾奥部で水質調査を行って4年目になります。湾内の水質を自動観測する機械は身近な場所には設置されていませんので、市民の目による水質調査が、青潮発見などの成果を上げ、また観察が多岐にわたるため好評価を集めているところですが、今回は、毎年この時期に実施している『水

質調査報告会』を、他にも釣り人として取り組んでいる大阪湾の環境再生の様々な活動報告と合わせて実施し、今後の各団体との連携、港湾を市民がサポートする体勢づくりなど、将来のあるべき方向性について考えてみたいと思います。ぜひともお集まりください。

大阪湾シンポジウム企画案

(趣旨)

海辺や港湾といった場所は、どのように利用し、管理すべきものなのか。その歴史的な背景を考えながら現在の問題点を取り上げ、将来に向けた市民の様々な意見や提案を発表する機会を作りたいと考えております。

基調報告として、「平成 20 年度の大阪湾水質調査報告」を行ない、現在大きな関心事であります「大阪港立入禁止区域の指定」について検討委員より中間報告を行ないます。また海辺清掃など釣り人による港湾環境を守る取り組みの紹介とともに、港湾サポーターの提案を行ないます。

第2部として、今後の港の利用について見識のある方に集まっていただいでシンポジウムを開催いたします。

この機会を作ることにより、多くの方々に港湾利用における問題点を理解していただき、今後行政及び市民が取り組んでいくべき指針ができることを望んでおります。また、釣り人や市民が取り組んでいる環境再生に関わるボランティア活動によりいっそうの参加協力を呼びかけたいと思います。

<実施概要> 予定

名称 みなとの利用を考える市民シンポジウム(仮称)
開催日 平成 21 年 3 月 21 日 土曜日
開催場所 大阪自然史博物館(地下鉄長居・長居公園内) 集会室
主催 NPO 法人 釣り文化協会

<プログラム> 予定

第一部「基調報告」(12:00~13:40)

- 1 大阪湾の水質調査報告
- 2 大阪港の立入禁止区域指定について中間報告
- 3 港湾を守るための釣り人の取り組み紹介と
港湾サポーターの提案

(休憩 20 分)

第二部「シンポジウム」(14:00~15:30)

テーマ：港と仲良くしよう

※内容については第1部第2部とも調整中です。

確定後釣り文化協会ホームページで発表いたします。

(お問合せ：事務局 tel.06-6358-4414)

※シンポジウムへの参加申込は、tel06-6358-4414 または fax06-6358-4445 で釣り文化協会事務局までお申し込みください。
メールの場合は jimukyoku@turibunka.or.jp まで。詳しい資料配布および入場のご案内をさせていただきます。

釣り界の新しい動きはこちらをご覧ください。

<http://www.zenturi-jofi.or.jp>

(社)全日本釣団体協議会のホームページです。

大阪湾の水質調査や釣り人ボランティアの動きはこちらをご覧ください。

<http://www.turibunka.or.jp>

NPO法人 釣り文化協会のホームページです。

インストラクター活動についてはこちらをご覧ください。

<http://www.jofi-osaka.com>

大阪府釣りインストラクター連絡協議会のホームページです。

